

# 伝えたい、出水のお茶の魅力。



地域おこし協力隊 川村 洋太さん (写真右)

「出水ってお茶のイメージがないと思いますが、茶祖・榮西禪師が建立にかかわった感応禪寺があったり、大正時代にはすでに出水の人が京都の宇治で製茶を学び、帰ってきて製茶場を開いていたりと、実はかごしま茶の古い歴史があります」。楽しそうに語る出水市の地域おこし協力隊の川村さん。

大阪や北海道での茶専門店勤務、台湾の茶店で働きながら中国茶について学び、宮崎県の茶農家に住み込み・・・と大好きなお茶に関わるために移住を繰り返してきた川村さんにとって、移住はやりたいことを実現するための自然な選択なのでしょう。毎週日曜は間借りカフェで選りすぐりのお茶を販売。「実際に飲んでもらいながら、お客さんとお茶の話ができるのが幸せ」と語ってくれました。

## 出水市



やりたいことをできる土地で。  
移住は自然な選択。



### 移住のきっかけ、決め手はなんですか？

宮崎県五ヶ瀬町の茶農家さんに2年間住み込み、農作業から製茶、販売、商品作り、SNSでの商品PRまで幅広くやっていました。しかし新型コロナウイルスの影響を受けて収入が不安定になりました。「雇用され続けるのではなく、自分の思う形でお茶に関する仕事を作り独立したい」と思い、出水市の上場高原が環境的にいいお茶が作れると気に入って移住を決めました。



### 出水市でどんなお仕事をしていますか？

2020年11月から地域おこし協力隊としてお茶を使った出水市のPRをしています。北薩は、古くから自家製釜炒り茶の文化があり、寒暖差がある山間部なので茶産地としてポテンシャルが高いんです。



お茶の仕入れ先「お茶工房田中園」

そんな地域とお茶の歴史や魅力を伝えたいと思い、2022年3月から「茶ノ花」(ちゃのか)という屋号でお茶の仕入れ販売と製造、喫茶を始めた。

毎週日曜に市内のすみとカフェを間借りして、お茶の飲み方淹れ方を伝えたり、茶農家さんの紹介をしたりしています。

これまでお茶に関わる中で、「確かに美味しくて質がよく、リーズナブルで、自然体で飲めるお茶」を伝えたいと思うようになりました。「日々のお茶、暮らしのお茶」をコンセプトに、茶農家さんから直接仕入れた国産で有機栽培のお茶を提供しています。

日々のお茶、暮らしのお茶。

chanoka

茶ノ花



### 出水市のどんなところが好きですか？

九州内のいろんな地域へのアクセスがよい点です。福岡空港、鹿児島空港、新幹線、高速道路などが利用しやすく、九州を回る拠点と言えます。いろんな地方の茶農家さんを訪ねるときに大変助かっています。

### これから移住を考える人へのアドバイスは？

私は横浜市出身で、お茶に関わりたくて、大阪、北海道、台湾、宮崎と移住を繰り返してきました。移住には相当な努力とエネルギーが必要だと覚悟し、先を見据え、計画を立てて行動してきました。出水は、情報交換をするコミュニティやユニークなプレイヤーと出会う土地なので、やりたいことがある方は全力で取り組んでほしいです。



### これから出水市でやっていきたいことは？

協力隊退任後は自分で立ち上げた「茶ノ花」で生計を立てられるようになりたいと思っています。店舗を持つとなると人が集まりやすい土地がいいと思いますが、出水は茶の産地として優れており、各地へのアクセスもよいので、出水とは繋がりをもち続けたいと思っています。

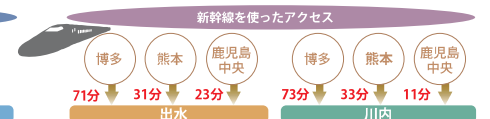


### すみとカフェオーナーからのコメント/伊達あずみさん

私がオーナーを務めるすみとカフェで、川村さんに毎週日曜、お茶喫茶を営業していただいています。川村さんは商品づくり、お店作り、情報発信など常にブラッシュアップしながら頑張っていると思います。お茶を活かした地域づくりをぜひ形にしていってほしいと思います。



### 都市部との交通アクセス



※所要時間は目安です。交通事情や時間帯等により異なります。※新幹線は最速の時間を掲載しています。



# 出水の美味しいみかかんを 全国に届けたい。



## みかん生産農家 福脇 慎一さん

見惚れるような断面の美しさに、思わず噛み締めてしまうほど甘酸っぱく、瑞々しいみかん。作っているのは、2018年4月に家業のみかん農家を継ぐためにUターンした福脇さんです。

大学進学を機に地元を離れ、神奈川県にある半導体メーカーに就職。得意な中国語を活かし、月の半分以上を海外で過ごす生活を10年以上送っていました。そんなグローバルな視点を持ち地元に戻ってきた福脇さんは除草剤をやめたり剪定の仕方を変えたりとみかん栽培に革新を起こし続けています。「欲しい人に欲しいものを届けたい」という思いを胸に、販路開拓にも取り組んでいるそう。

向上心を持ち続ける福脇さんに、移住への思いを語っていただきました。

## 出水市

Uターン  
U-turn

13年の海外経験を生かし、  
家業のみかん農家で革新を起こしたい。



### 移住のきっかけ、決め手はなんですか？

物心ついた時から、いつか家業を継ぐのが自分の責任だと思っていました。だからこそ、学生時代には、農業とは別のことで、かつ家業にも役立つような理論経済学を専攻するなど、色んなことに挑戦しました。北京留学の経験を活かし、神奈川県にある半導体メーカーの海外部署に約13年間勤務し、退職前の3年間は、中国に駐在して現地の顧客と本社の架け橋の役割を果たしました。農家を継ぐなら両親が元気なうちに技術や知識を学んでおくべきだなと思い、ちょうど、会社が希望退職者を募るタイミングも重なったので、思い切って脱サラして、出水に帰って来ました。



### これから移住を考える人へのアドバイスは？

車の運転は必須になります。買い物は思いの外、不便は感じていません。今のご時世、インターネットで買い物でき、翌日から翌々日には届きますよ。



甘みと酸味のバランスが絶妙の大荷季（福脇さん撮影）

### 出水市でどんなお仕事をしていますか？

2018年4月に帰ってきて、みかん農家を4代目として継いでいます。農家の息子とは言っても、手伝い程度だったので、試行錯誤の連続でした。両親に教えてもらうばかりではなく、植物生理学や自然農法の本を読むなど、一度外に出た自分だからこそ持つ視点で努力をしました。また、欲しい人に欲しい商品を届けられるよう、個人向けの販路拡大にも取り組んでいます。生産物を人に届ける仕事なので、「人に伝える」という点で、前職の営業の経験が役に立っていると思います。



### これから出水市でやっていきたいことは？

リモート販売をもっと展開していきたいと考えています。以前、東京駅前のマルシェに参加した際に、現地の方に販売、料金受領を行ってもらい、私は出水の農園からリモートで接客するという形を取りました。その時、「これなら、出水にいなながらも全国のの人に美味しいみかんを届けられる」と感じたので、みかんがない東北などにも展開したいと考えています。また、できればお客様のところに直接会いに行きたいので、時間を作るために農作業の効率化と省力化に励んでいます。



甘夏の収穫

大きく実った甘夏畑でジャンプ！

### 出水市のどんなところが好きですか？

食べ物はなんでも美味しいです。特に、近所のおじちゃんが「みかんのお礼」としてくれるナマコで作る、ナマコ揚げが好きです。美味しくてつついっ食べ過ぎてしまうので、最近は筋トレもしています。あとは、小中の同級生とたまに集まって互いの経験を語り合うのも学びになるので面白いです。趣味として、カメラにも挑戦しています。出張が多かった移住前に比べると自由な時間が少し増えたので、農園の四季折々な写真を撮って楽しんでいます。



甘夏畑からの夕日（福脇さん撮影）

### 福脇さんのお両親からのコメント

福脇京子さん・正智さん

「帰ってくる」と言われた時は正直、嬉しかったです。就農を強制したことはなかったのですが、心のどこかでは「継いでほしい」と思っていましたから。でも、「せっかく良い会社で働けて、仕事にも慣れたのに」と親心で、複雑な気持ちになったのも本音です。新しい農法に挑戦する息子の姿を見て、私たちも刺激を受けています。農業は大変ですが経営をよりよくして、出水で幸せになってほしいです。



### DATAで 鹿児島と東京の 暮らしを比較

鹿児島島の3次活動（各人が自由に使える時間における活動）の1人1日あたりの平均時間は東京と比較して多くなっています。背景としては通勤・通学時間が比較的短く、自分の好きなことをする時間が得られやすい環境があると言えます。

出典：令和3年社会生活基本調査

### 3次活動（平日の自由時間）

鹿児島



東京

5時間42分

5時29分